

常一小だより

令和3年11月13日
松戸市立常盤平第一小学校

保護者会特別号II

学校HPアドレス <http://www.matsudo.ed.jp/toki1-e/>

児童数 96名

令和3年度の折り返しを過ぎて

校長 平松 澄明

本日は、お忙しい中を土曜参観にご参加いただきありがとうございます。全体会は、6年生の発表もあって来場者数が増える恐れがあり、会の実施時間短縮の必要性があることから、新型コロナウイルス感染予防の観点で、紙面にてお話に代えさせていただきます。

1 コロナ禍の制限と緊張の中で

緊急事態宣言下でスタートした2学期は、短縮日課の学校生活でした。その中でも、本校の教育活動や感染拡大予防策への皆様のご理解とご協力により、昨年3月以来、1年半以上にわたり学校・学級閉鎖0で学校運営ができました。心より感謝申し上げます。

緊急事態宣言が解除された10月からは、ガイドラインの制約はありますが、通常に近い指導が可能となりました。そして、学区内の図書館・公園の見学や地域ゆかりの大野先生による版画の授業などが実施できたのは、本校が小規模校で小回りが利き、より多くの個性を有する子どもたちの学校であるという常一小の特徴が活かされたものでもありました。

さらに、校外学習が全て予定通り（さらに好天の下で…）実施でき、子どもたちは学習を深め、思いづくりができました。そして、修学旅行や宿泊体験学習の実施も現実のものとなりつつあります。

また、本市初ともいえる市内合同音楽会への6年生全体の取組みとして素晴らしい演奏を披露したことや、市内体育大会が中止されても隣接の高木小学校と合同で記録会を実施したことなど、常一小の子どもたちの素晴らしさをこの状況下でも対外的に示すことができたことも特筆すべきことです。

一方保護者の皆様におかれましても、この社会状況下でも活動を停滞させず、PTAの解散と新しい保護者組織の立ち上げという大きな節目を実現していただきました。本来なら会員出席による総会を実施するところを「紙面総会」という異例の運営でこの問題を進められたのは、関係された新旧役員の方々のご尽力はもちろんのこと、すべての保護者の方々のご理解とご協力の賜物だと思います。

松戸市内に本校を含め45校の小学校がありますが、このコロナ禍の中で上記のようなことを全て行えた学校があるでしょうか。これらの成果に、常一小の「よさ」が集約されていると思います。

2 令和3年度後半から次年度へ向けて

来年度の入学者数はまだ未確定ですが、本校の小規模化の傾向が、短期間で大幅に改善される兆しはありません。学区の少子高齢化が主原因だからです。統廃合の話も無論ありません。本校が、本市の中心部にあり、「常盤平地区」としての児童数が極端に減少していないからです。来年度に向けて次の3点を中心に学校運営をしていきたいと思えます。



(1) 「常盤平学」＝「常盤平で学ぶ・常盤平を学ぶ・常盤平に学ぶ」がキーコンセプト

生活科や総合の時間を中心に、以下のような常盤平やその周辺の施設・設備や自然、人など「地域の宝」を活用した「常盤平学」に取り組んでいます。

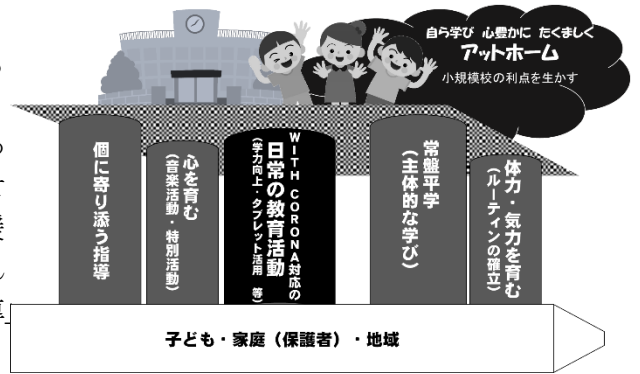
- 市立博物館や市立図書館常盤平分館と連携した児童の見学や職員の研修
- 地域のゆかりのある方による学習（なかよし学級：版画 6年市内音楽会発表）
- 地域やUR都市機構（独立行政法人都市再生機構）との連携による学習の模索
- 近隣他校との連携（高木小：陸上記録会 常中：リモート学校訪問 等）
- 保護者組織との連携（読み聞かせ おやじの会：水遊び 等）

もっと挑戦したくてもコロナ禍の制限で進められず残念です…。こうした体験的・活動的な学習の取り組みは、学習指導要領が謳う「主体的・対話的で深い学び」につながるものです。

※ 千葉大学柳井研究室主催の「みんなで作る暮らしの庭」というカラー刷りのチラシを本日配布しました。このイベントは団地自治会と連携して常盤平団地を盛り立てようとするプロジェクトの一環です。10月には「望のひろば」（アコレ裏）でワークショップが行われました。常盤平を身近に感じる機会として、お時間がありましたら覗いてみてください。

(2) 小規模で多機能な常一小の特色を活かす

「松戸一小さな学校」であることは、教職員と子どもの「顔」が見える「アットホーム」な指導環境であるということです。また、地域で育まれた穏やかで優しいあたたかさを、子どもたちから学校生活の随所で感じさせられます。そして、市内でも有数の伝統のある特別支援学級があり、通常学級との日常的な交流や連携が行われています。これら「よさ」を大切に「個に寄り添う指導」を進めることが私たちの使命であると考えます。



(3) 主体性を育む学校支援ボランティアによる「学校-家庭-地域」の連携

「連P」を脱退、「PTA」の解散が決まり、会費徴収や従来の役員や当番はなくなりました。しかし、これまでもお話しした通り、学校運営において「学校-家庭-地域」の連携は必要不可欠かつ重要です。このために、学校支援ボランティアという立場で保護者の皆様に関わっていただく体制を作っていきたいと思えます。学校はご家庭と連携して行いたい教育活動の協力要請をし、保護者は子育てのために力を発揮したいという気持ちを行動化するという「Win-Win (ウイン-ウイン)」の関係で常一小の学校運営がなされるという、生涯学習の視点で無理なく活動できるようにゆっくりと連携を育んでいきたいと思えます。

活動のイメージとしては、すでに大勢のOBが活動をしている「おやじの会」や本校の読書活動の一端を担っていただいている「読み聞かせ活動」、運動会前や先日の有志の方々による「除草作業」等のようなものと考えていただければよいのではないかと思います。

これら現在の学校運営は、当然未来に繋がります。今後の進むべき姿を垣間見ることができます。

先週お知らせした「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン (ver.9)」では、学校や家庭におけるこれまでと変わらない衛生管理と健康管理を求められています。私たちは、皆様と協力して、これまでの築いてきた生活様式を「凡事徹底」「相見互い」で守り続けます。常一小の楽しく円滑な学校生活を皆で実現していきましょう。



3 修学旅行・宿泊体験学習の中止・延期に伴う松戸市のキャンセル料の補助等について

5・6年生の宿泊行事で発生したキャンセル料については、本市の財政上の手続きの関係で、保護者の皆様が負担されたキャンセル料を市が補填するという形をとるため、先日のお手紙でお知らせしたように「ご家庭よりいったん支出の後に口座への振込」となり、手数料のみご負担をいただくこととなりました。当初の集金計画で十分にご説明できなかったことをお詫び申し上げます。

一方日帰りの校外学習は、松戸市の新型コロナウイルス対策である、市が借り上げたバスを活用する制度を利用することで、当初の計画より大幅な費用の削減ができました。こちらは、「1～2台のバスの借り上げで済むため借りやすい。」という小規模校の利点が活かされた結果となりました。

また、感染状況の変化に合わせたことにより、行事の実施時期が重なりあわただしい日程となりました。来年度は、コロナ禍の終息を期待して例年通りの日程配分で計画します。

松戸一小さな学校の充実した学校生活のために…、「がんばろう 常一小！」

※ 記載の内容を含め、ご不明な点等ありましたら、いつでも校長・教頭・担任等にお話してください。